



熊本地震から2年半

津島市立神守中学校長 小林秋良

11月5日は「津波防災の日」です。今年はちょうど11月5日が月曜日になりましたので、朝礼で、なぜ11月5日が津波防災の日に制定されたか、1854年（安政元年）の「稲むらの火」の話をしました。その後、「熊本地震から2年半」と題したスライドを生徒に見せながら現状を話しました。

それでは、津島市から約850キロ東の益城町や熊本市の様子を皆様にもお知らせします。

<熊本地震から2年半（一部抜粋）>

熊本地震から2年半



平成28年4月に発生した熊本地震から2年半がたちました。ちょうど3年生が入学したばかりの頃でした。覚えていますか。

平成28年熊本地震

平成28年4月14日以降に熊本・大分で震度7(最大震度) 4月14日・16日

震度7が2回観測史上初
前震と本震

犠牲者 死亡50名 関連死212名
大雨の二次災害死5名
負傷者2,804名

熊本地震は、4月14日と16日に震度7が2回観測された観測史上初の地震でした。後日、前震と本震と名付けられました。

益城町の被害

住宅…10,742軒のうち10,584軒が被害
(町の約98%の住宅)
全半壊6,259軒

地盤…液状化・崩壊・亀裂
全2,713カ所のうち1,233カ所
(全体の約45%が益城町)

犠牲者 死亡40名 負傷者165名

被害が最も大きかったのは、熊本市の隣の益城町でした。住宅のほとんどが被害を受けた上、たくさんの人が犠牲になりました。

現在 ボランティアセンター
〈平成30年4月に終了〉

イセキ農機のグラウンドに
戻された

ボランティアセンターは平成30年4月に終了しました。イセキ農機から借用していた土地は、元通りグラウンドになっています。

現在 町役場は解体・整地
↓
新しい庁舎建設へ



被害が一番大きかった益城町役場付近の復興は進んでいます。役場は解体整地され、新庁舎建設に向けて動き出しています。

現在 別の場所に
プレハブの町役場



現在の益城町役場は、プレハブで建てられています。元あった場所から少し離れた所で、通常の業務を行っています。



現在 舗装された道路

2年前に訪れた時は、道路のいたる所に亀裂や陥没がありました。しかし、ほとんどの道路は舗装され、修復されていました。



現在 さら地のまま

平成28年7月に始まった公費による家屋解体は順調に進んでいます。しかし、その後はさら地のままの場所が目立ちます。



仮設団地
現在6,000人入居

せまい音が気になる家族への気がね

益城町の仮設団地は18か所に建設されています。受験を控えた中学3年生は、そんな環境の中でも頑張って学習しています。



ボランティアさんによる学習会(週末)

町内最大のテクノ仮設団地では、みんなの家と言う名前の集会所で、週末に、ボランティアさんが中学生に学習を教えています。



熊本市で、地震のつめ跡は、唯一、熊本城だけと言っていいほど復興しています。現在、市役所の14階から城を展望できます。



中学生が活躍

中学生が復興の担い手

この熊本地震では、中学生が荷物を運んだり、小さい子の面倒を見たりと、復興の担い手として活躍しました。

平成28年4月の地震発生から、2年半の月日が流れました。そして、私が前回(平成28年10月)熊本を訪れてから約2年の月日も流れました。今回の訪問前に「復興は進んでいるだろうか。」と心の中でつぶやいたその言葉には、復興が進んでいるにちがいないと期待を込めた言葉でもありました。

この平成28年熊本地震は、震度7の揺れが数日間に2回おきた観測史上初めての地震です。そして、1回目を前震、2回目を本震とされたことも、初めて耳にした用語でした。そんなことから話し始めた前回(平成28年12月)のスライド「平成28年熊本地震のその後」を見せた時、現3年生はまだ1年生でした。そう考えると、月日の流れるのはたいへん早いとつくづく思います。そのように、復興も早く進んでほしいと願うばかりです。